



同志社大学

DOSHISHA UNIVERSITY  
Faculty of Psychology

# 心理学部 父母会会報



No. *11*  
December  
2014



常に誠実、かつ真実であれ。

大胆に自信を持って発言、行動せよ。

— 同志社編「新島襄自伝」岩波文庫、366頁



今出川校地寒梅館

## Contents

● ご挨拶 .....	4
● 父母会イベント .....	6
● 学部生の活躍 .....	7
● 学生レポート 「ゼミ探訪」 .....	8
● 就職情報1 「就職座談会」 .....	10
● 就職情報2 「就職先/進学先一覧」 .....	14
● 就職情報3 「卒業生の声」 .....	15
● 日本心理学会開催レポート .....	16
● わたしの学生生活 .....	18
● ご父母から .....	21
● 教員メッセージ .....	22
● 学部インフォメーション .....	23

# DOSHISHA UNIVERSITY Faculty of Psychology



# ご挨拶

## 父母会活動について

師走のあわただしいシーズンとなりましたが、皆様、お子様方ともにお元気で、ご活躍のこととお喜び申し上げます。

さて、私は本年度ご縁がありまして、心理学部父母会の副会長を務めさせていただいております乳原（うばら）と申します。皆様方には、何かとお世話になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。



娘が同志社大学心理学部に入学してから早、3年が経過しました。内部推薦入学した当初は、学業についていけるかが心配でしたが、5月の父母会総会後の懇談会で、諸先生方との交流や面談を通じて、アドバイスをいただき、気持ちが楽になったことがつい昨日のこのように懐かしく思い出されます。

同志社大学心理学部の教職員や先輩、同級生の皆様方のお蔭で、今では娘も心理学に興味を持つことが出来、更に心理学の勉強を深めていきたいと考えているようです。

心理学部父母会では、父母総会や地方懇談会を実施しており、先生方や保護者の皆様との交流の機会を設けております。総会・地方懇談会時には、学業や就職、不安に思うことなど、先生方に個別に面談をしていただけます。また、このような父母会の活動を通じて、皆様方が一番ご関心をお持ちの大学での子供達の様子をよりよく知ることもできます。

今後も、父母の皆様や教職員の方々からご協力、ご意見をいただきながら、微力ではございますが、より活発で、より実りの多い父母会活動にしていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

心理学部父母副会長 乳原 和美

## 雑談をすること

雑談という言葉から皆さんは何を思いうかべるでしょうか。「雑談などというのはまったく下らないものだ。そんなことに時間を使うぐらいなら、本を読むなどもう少し身になることに時間を使った方が良い。」このように思われる人は結構多いかもしれません。しかし雑談というのは非常に重要なものです。



例えば初対面の人と話をするときのことを考えてみてください。一通りの挨拶が終わった後には、雑談をするのではないのでしょうか。いきなり「あなたはどの政党を支持していますか」、などと聞いたりはいしないはずです。天気の話や当たり障りのない芸能人の話や趣味の話などをしましょう。これが一般的な人間の付き合いかたになると思います。

親子の間でも同じことが言えます。もちろん親子は初対面の人と話すのとは全く違いますが、親子の間でも雑談がとても大切です。たとえば親が子供の顔を見る度に「成績はどうなんだ」、「ちゃんと勉強しているか」などと話しかけていたら、子供は親を疎ましく思うに違いありません。しかしもし親が大好きな野球チームの話をしたり、大好きな芸能人の話をしたら子供は気持ちがとても楽になるでしょう。この会話はどうでもいいことに思えるかもしれませんが、しかしこんなふうに時間を過ごすことができれば、子供は親になかなか言えないようなことでも、機会を見つけて報告したり相談したりするものです。そのように考えると雑談をするということがいかに重要かわかっていただけたらと思います。そして雑談をしながら子供の表情を見たり態度を見たりして、言葉ではわからない子供の状態を把握することもできます。雑談というのは基本的に人間関係の潤滑油ですし、親子にとってなくてはならないものです。そして最も大切な事は親子が同じ時間を一緒に過ごしているということです。

時間を共有するということはカウンセリングの基本とされる考え方です。堅苦しい親子関係ではなくお互いに楽しい話ができる時間を大切にすることが出来れば、子供の心の中を十分に理解し、信頼しあえる親子関係を築いてゆくことができます。

心理学部長 佐藤 豪

## ■ 父母会イベント

### 2014年度同志社大学1dayキャンパス／心理学部地方懇談会

#### 教員講演会のご紹介

～東京地区～  
及川昌典准教授

#### 「心を科学する：無意識研究の展開」

他でもない自分自身の心の働きが、思い通りにならないのはなぜでしょう？

人は誰しも、心の仕組みについて自分なりの理解を持っているものです。しかし、誘惑や依存症に苦しんだり、大切な仕事を先延ばしにしてしまったり、つい後悔するような言動をしてしまったりして苦しんだ経験もまた、誰にでもあるものです。

今回の講演では、私たちの心の働きの内、自ら意識して知ることのできない、無意識の心の働きについてお話させていただきました。かつて無意識といえば、不適応な衝動や抑圧された思考を管理する特別な機構を指した、精神分析学の用語でした。しかし、現代の心理学では、人間の適応的な行動や体験を生み出す、一般的な仕組みとして捉えられるようになりました。

意識できない情報の影響を受けるサブリミナル効果は、無意識の働きのわかりやすい例です。他にも、意識せずとも相手に合わせて反応を調整する社会行動の自動性や、重要な情報を優先的に処理する選択的注意、創造的なひらめきに導く洞察的問題解決なども、無意識の恩恵であることがわかってきています。無意識研究の展開には、医療・福祉、法律や政策、製品開発やサービスなど、幅広い分野への応用が期待されています。



地方懇談会教員講演(7月20日東京)



地方懇談会教員講演(11月1日京都)

#### 京都地区懇談会

2014年11月1日(土)、京田辺キャンパスにて京都地区懇談会が開催されました。

当日は、遠方からお越しくださったご父母も多く、役員・教員を含む、43名の方々にご参加いただきました。

懇談会とあわせて、心理学部 畑敏道教授による、「脳の中に時計をさがして」と題した、「生理心理学」の一部をご紹介する教員講演会も行われ、ご好評をいただきました。

懇談会では、心理学部長 佐藤豪教授も交え、皆様がご関心をお持ちの、学生生活や就職・大学院入試等の話題について直接意見交換ができ、大変貴重なお時間となりました。

また、同日開催されました、「同志社クローバー祭」では、学部生による「心理学体験コーナー」が実施され、こちらにも参加された方も多く、お子様が進んでいる心理学について、より身近に感じていただけるよい機会となったのではないのでしょうか。

今年度も、仙台、福岡、名古屋、金沢、東京と各地で地方懇談会を開催しましたが、今回の京都地区が今年度最後となりました。

京都地区懇談会への参加者数が今年度は最大となりましたが、この様に皆様との親睦を図ることができる地方懇談会は、多くのご父母よりご支持いただいております、非常にありがたく感じております。

次年度は、これまで以上に教職員とご父母、また、ご父母同士の繋がりを深めることを目標に、父母会運営に努めさせていただきますたく存じます。

今年度も心理学部地方懇談会にご参加いただき、誠にありがとうございました。

## ■ ファーストイヤーセミナー ポスター制作発表会

1年次生の必修科目「ファーストイヤーセミナー」では、グループ毎に題材を決め、調査・ポスター制作・発表の課題があります。今年の優勝チームをご紹介します。



1年次生  
左から 穴澤 英和さん、岡部 桃子さん、上杉 南さん  
今村 新さん、三原 瑞木さん

### テーマ コーヒーは肝臓がんを予防できるのか

#### 【要旨】

私たちの班は、医療系の通説に関して何か調べてみたいと思い、飲料とがんの関係の中でコーヒーと肝臓がんの関係をテーマにしました。ポスターは、導入部、肝臓がんの発症を防ぐ一次予防、発症した肝臓がんの悪化(浸潤・増殖)を防ぐ二次予防、結論という大まかな流れを決めてから作成に取り掛かりました。

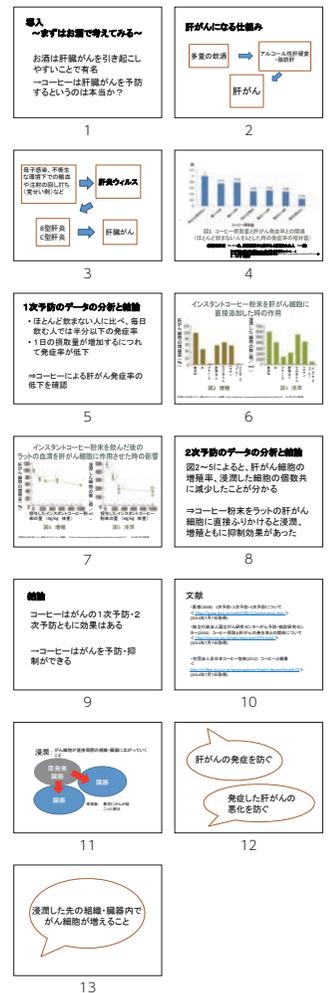
まず一次予防に関して、国立がん研究センター・予防研究グループの実験データより、「ほとんどコーヒーを飲まない人」に比べて「ほとんど毎日1杯飲む人」は肝臓がんの発症率が半減、さらに「毎日5杯以上飲む人」は発症率が約4分の1に抑えられることが分かりました。また二次予防に関して、現段階ではラットに対してのみの実験結果ですが、インスタントコーヒー粉末をラット由来の肝がん細胞に直接添加しても、コーヒー粉末を摂取した後のラットの血清を肝がん細胞に作用させても、浸潤・増殖に対して抑制の効果が見られました。結論として、コーヒーは肝臓がんの一次予防、ラットにおける二次予防に関して効果があることが分かりました。

### ポスター制作活動を終えて

ポスター発表演習の目的は、何らかの問題に対して論点を絞り、根拠となる客観的な二次データを示して考察を行い、一定の結論を導く練習をすることにありました。これを達成するために、授業では担当教員によるテーマの設定のポイントや中間報告会に向けての仮ポスター作成の指導などを受けました。

初めは何をすればいいのかが全く分かりませんでした。先生や班員と話し合い、目的から逸れないよう常に気を付けながらポスターを作成することができたと思います。また内容だけでなく、それをわかりやすく相手に伝えられるようレイアウトにも注意し、見やすさにも気を配りました。

テーマ設定からポスター報告会までの一ヶ月という期間は長いようで短く忙しくはありませんでしたが、班員同士で密にコミュニケーションをとったり分担をして作業を進めてポスターを仕上げたりと、とても有意義な時間でした。今回はあくまで既にある統計等の二次データを用いたものでしたので、ここで身に付けた考え方や手法を基礎として次に活かしたいです。



Teacher's  
Voice

藤岡 勲 准教授

#### 【クラス担当より】

優勝チームの発表は優れたものであり、テーマおよびストーリー展開は、キャッチーでありながら意義深いものでした。また、あつかわれていた内容やデータは、高度なものでありながらわかりやすく説明されていました。これからも、学生の皆さんが自分たちの力を発揮できるような教育を行いたいと思っています。



4年次生のゼミ紹介

## 佐藤 豪ゼミ

(専門:臨床心理学・健康心理学)



意欲的に取り組みば  
目標に向かい進んでいける

4年次生  
大仲 陽子さん

私は臨床心理士になるために大学院に進みます。佐藤先生は臨床心理士として病院での勤務経験もお持ちですし、きっと得るものがあると考え、佐藤ゼミを選びました。ゼミはほんわかして落ち着いた雰囲気ですが、自分が主体性とやる気を持って取り組みば、しっかり目標に向かって進んでいけると感じています。

私の研究テーマは「現実自己と反映的自己」。現実の自分と他人がこう思っているだろうと思う自分のずれが自尊感情とどんな関連があるのかを研究しています。3年次のプレゼミを通して、自分の興味のあるテーマがはっきりしてきました。佐藤先生に相談することでテーマに対する考え方がより深まったと思います。一般教養の時間に他学部の学生を含む400人に質問紙を配って調査し、それを分析して論文にまとめています。質問紙の配布など調査時にゼミの友人に手伝ってもらい、とても助かりました。



幅広く主体的に学ぶことで  
自分の研究が深まる

4年次生  
長澤 俊和さん

臨床心理士になりたいと考えていますので、臨床系の大学院に進むのが当面の目標です。研究テーマをどうするかを決めかねていましたが、佐藤ゼミなら幅広く主体的に学べると思って選択しました。ゼミでは毎週、他のゼミ生の発表を聞いて意見交換するのですが、自分にはない考え方や異なった研究テーマに触れることで、より自分の研究を深めることができます。佐藤先生はお忙しいのですが、一人ひとり時間を割いてしっかりと指導していただいています。

私の研究テーマは「あきらめる」です。諦めることは心と体にいい面と悪い面があるとされていますが、心理学的にまだあまり研究されていません。諦めることのイメージやストレスとの因果関係などをアンケート調査し、分析して自分なりの考え方を追求しています。

実は、僕は3年次のプレゼミの時には違うゼミにいました。所属替えはまれなケースですが、佐藤先生には温かく迎えていただき、本当に感謝しています。



Teacher's  
Voice

佐藤 豪 教授

### 臨床心理学的(?)なゼミ

ゼミでは、学生一人一人の自主性にまかせてできるだけ自由にテーマを選び、研究するように方向づけています。大学院に進学する学生を除けば論文を書くという体験は今しかできないものです。ですから、自分自身が精一杯頑張ったという誇らしい気持ちで卒業してもらいたい、それが人生を積極的に生きていく自信になって欲しいと願っています。個人の生き方を大切にするという面で臨床心理学的(?)なゼミだと自負しています。



## 4年次生のゼミ紹介

# 渡邊 ひとみゼミ (専門:発達心理学)



## 等身大の自分自身が研究 できるアットホームなゼミ

4年次生  
倉科 真実さん

女性のライフコースやキャリア選択に関する研究が渡邊先生のご専門の一つですが、この分野の研究者が少ないと自分自身が社会人として将来どのような道を歩んでいくかにも関心があり、渡邊ゼミを選びました。ゼミの雰囲気はみんな仲が良く、アットホームな感じ。渡邊先生も気さくで優しく、学部の先輩でもあるのでとても身近に感じています。

私の卒論のテーマは「女性のライフコース選択」。もう一人のゼミ生とペアで研究を進めています。就職して結婚・出産を経験した女性300人を対象に、キャリア効力感や仕事に対する価値観の変化を調査して、共同執筆で論文にまとめます。テーマを決める際に他のゼミ生から自分たちでは思いつかないようなアイデアをもらったり、渡邊先生から適切な指導をしていただき、とても助かりました。青年期の発達について研究する中で、等身大の自分自身のことについても学ぶことができるのがこのゼミの魅力です。



## 適切なアドバイスで 説得力ある卒論が書けそう

4年次生  
中村 翔さん

3年次生の時、ゼミ選択の段階で説明会に参加し、渡邊ゼミに在籍していた先輩から直接話を聞く機会がありました。サッカー同好会に所属していてスポーツに関係した研究がしたかったのですが、渡邊ゼミは心理学部の中で唯一それができるゼミでもあり、迷わず渡邊ゼミを選びました。渡邊先生には教員と生徒という枠を超えてアプローチしていただき、僕らと同じ目線でご指導いただけます。

卒論は3人のグループで「組織コミットメント」のテーマに取り組んでいます。サークルや部活へのかかわり方と就職後3年以内の離職率との関連性について研究しています。就活時の考え方やモチベーションについて他学部も含め950人の学生を対象にアンケート形式で調査をしたのですが、質問紙の配布や協力依頼を何人かのゼミ生に手伝ってもらい助かりました。渡邊先生は行き詰った時に適切なアドバイスをしてくださるので、結果につながるいい環境で説得力のある卒論が書けそうです。



## Teacher's Voice

渡邊 ひとみ 助教

## チーム力を活かしながら挑戦

とにかく「明るい」ゼミです。ゼミでは、「失敗をしても良いので自分の好きなことを突き詰めよう!」という態度で学生と接しています。その甲斐あってか、失敗やトラブルもよくありますが、4年間の総まとめとして、各々が主体的に日常の不思議を解明すべく努力しています。みんな1つのテーマに対し多様な意見をぶつけ合う面白さや、自分の好きなことを自由に検証できる喜びを、卒業論文執筆を通して経験してもらえたらと思っています。

## 心理学部生による就職座談会—就活を考える—

座談会  
参加者

司会・進行  
神山 貴弥教授

4年次生(内定者)

辻 縁さん(金融)  
明石 悠佳さん(IT)

有井 佳祐さん(メーカー)  
山路 浩記さん(百貨店)

**神山** 本日は、すでに内定を獲得した4年次生4人に集まっていたいただきました。後輩やそのご父母に参考にさせていただけるようにみなさんの就職活動について幅広く話を伺おうと思っています。まずは自己紹介を兼ねて、それぞれ心理学部に入学した動機を聞かせてください。



神山 貴弥教授

**有井** 神山ゼミの有井佳祐です。私が心理学部を志望したのは、人と人とのつながりについて学んでみたいと思ったからです。神山先生のお蔭で、大変いい勉強をさせていただきました。

**明石** 石川ゼミの明石悠佳です。私は高校時代にカウンセラーに出会ったのが、心理学部を目指した理由でした。違う道を歩むことになりましたが、心理学部での4年間は大変充実したものでした。

**辻** 武藤ゼミの辻縁と申します。私もカウンセラーになりたくて心理学部に入学しました。就職先は金融機関ですが、普段から自分自身を見つめる機会が多い学部ですから、就職活動にも役立ったと思います。

**山路** 内山ゼミの山路浩記です。私も人の行動と心のあり方を理解したいと思い、心理学部を選びました。4年間勉強してみて、少しは人の心が理解できるようになったと思っています。

### 内定までのそれぞれの道のり

**神山** それでは、みなさんの就職活動について具体的な話に入りたいと思います。内定先の話も交えながら、就活はいつごろ始め、何社くらいにエントリーし、なぜその業界を志望したかというあたりから聞かせてください。

**有井** 就活は解禁された12月から本格的に始めましたが、10月から説明会には参加していました。エントリーシートを提出したのは46社。みんなと比べて、多い方だと思います。海外で働きたいと思っていましたので、海外勤務ができそうなメーカー、商社などを志望しました。音楽が好きなので、幸い音楽関連のメーカーから内定をもらうことができ、今はほっとしています。

**神山** 海外勤務は諦めたのですか。

**有井** 内定先は世界シェアNO.1で、海外の売上比率が6割の会社です。発展途上国で市場を切り開きたいと考えていますし、そのポテンシャルのある会社です。海外志向は変わっていません。

**明石** 私は12月になってからしっかり就活に取り組みましたが、周囲に意識の高い人が多く、その影響で夏前から会社説明会やワンデー・インターンシップに参加していました。出版業界に興味があり、大手出版社6社とIT企業1社に絞り込んで、エントリーしました。内定をもらったのは、出版社でなくIT関連の会社ですが、メディアを使って記事も配信していますので、出版業界でやりたかったことができそうです。また、女性として働きやすいような福利厚生や人事制度も充実していますので、満足しています。

**辻** 私も結婚し、母親として子どもを持ちながら仕事もするのが夢ですので、女性として働きやすい金融機関を目指しました。地元で働きたかったので、都銀でなく地銀を選んだのですが、幸い第一志望のところから内定をいただくことができました。本格的な就活は12月から始めましたが、春からキャリア形成などの授業は取っていて、9月に百貨店でインターンシップを経験しました。エントリーは50社ですが、面接まで行ったのは20社。興味のある百貨店でのインターンシップを経験して、志望先を金融業界に決めました。

**神山** インターンシップの経験が業種を選ぶのに役立ったのでしょうか。

**辻** 百貨店にインターンシップに行って、働きたい部署に必ず行けるわけではないことを知りました。また、勤務シフトで休日に休めないことも多く、自分が希望している働き方ができないと分かり、志望先を変更するきっかけになりました。

**山路** 私もそうです。最初はメーカー志望でした。30社ぐらいエントリーして、他の所に見向きもせず企業向け事業が主体の企業を受けていました。そうしているうちに接客して成果がダイレクトに出る一般消費者向けの企業もいいなということに気づきました。その後、小売業やスーパー、百貨店を受け始め、百貨店から内定をいただきました。就職活動が続けるうちに志望先が変わって、結果的にはそれがよかったと思っています。

## 苦労をこんな風に乗り越えた

**神山** 就職活動で苦労したことはどんなことですか。また、筆記試験や面接対策はどうしましたか。

**有井** まずは部活動との両立が大変でした。軽音楽部でバンドマスターをやっていたので、対策本を買って朝2時間勉強し、その後一日中クラブ活動をやって、夜にエントリーシートを書くという生活が続きましたが、時間がなくて部活を休んだこともありました。面接はいろんな出会いがあって楽しいのですが、「受けた商社を全部受かった」というような就活マスターのような就活生がいて、結構プレッシャーでした。途中から開き直りましたが。面接対策としては、OB訪問が面接の練習だと考えて、たくさん回らせてもらいました。



4年生 辻 縁さん

**神山** OB訪問先の情報はどのようにして手に入れたのですか。

**有井** キャリアセンターに行けば、どんな先輩がどこの会社にいるかわかります。そこでメールアドレスを教えてもらって連絡を取りました。また、知り合いに頼み込んでOB訪問したこともありました。明石さんのお姉さんが内定先の関連会社におられて紹介してもらい、OB訪問した後もいろいろとアドバイスをいただき有り難かったです。

**明石** そうでしたか。それはよかった。私が苦労したのは、一人が50社、60社とエントリーするのが当たり前ところで、早々に7社に絞り込んだことです。これでいいのか、もっと受けた方がよかったのではと悩みました。試験対策では、第一志望だった出版社は難問・奇問が多いので、エンタメ情報はチェックしました。ドラえもんの身長、体重がでましたからね。面接対策は、自分が用意したこと、決めたことをしゃべるのではなくて、会話が続くように心がけました。あとは嘘をつかないようにしていました。

**辻** 私が苦労したのは、大学での勉強以外でバイトしかしたことがなくて、サークルとか部活、留学などの経験がなかったことです。面接でそのあたりの質問が出たら、何をいったらいいのか悩みました。ありのままを伝えるしかないと考えて面接に臨みましたが、一番つらい質問が出て、うまく答えられないこともありました。内定先の面接ではそのことは聞かれず、ラッキーでした。

**有井** 面接では、想定外の質問も出ますよね。「今日のうちの株価、知ってる？」とか。

**明石** 私も「失敗したな」と思う受け答えをした経験があります。やりたくない仕事を聞かれて、「ルーティンワーク、銀行員」と答えたら、面接官の前職が銀行員でした。内定先でのことなので、今となっては笑い話ですが。

**有井** 面接でインドで働きたいと言ったら、海外でうちの商品であるギターをどう売るかとか聞かれました。そこで、向こうで有名なシタール奏者にギターを弾いてもらうとか、シタール・チューニングのアクセサリーギターを販売するとかのアイデアを出しました。

## 自分の言葉が相手の心に届く

**神山** 面接官は、実にさまざまなことを聞いてくるようですが、自分の特性を知ってもらうことが重要だと思います。こちらの言葉が相手の心に届いたということがありますか。

**有井** 私の場合は「社長が君のことを宴会部長候補だといっている」というフィードバックが人事担

# Information

当者からありました。3分間の自己アピールでは、チャレンジ精神を発揮してシタールを弾きました。英語で自分の説明をして「御社のために愛を持って働きます」といいました。キャラ採用なんです。

**山路** 私も苦労したのは面接ですね。エントリーシートに基づいて聞いてくれると思っていたのにそうでなかったり。面接官は一から十まで聞くつもりはないですからね。どうすれば相手の気を引くことができるか悩みました。自分が用意していた以上のことを聞かれたりすることもありました。私は陶芸サークルに入っているのですが、白のマグカップを作った時、牛乳を入れたらどこまで入ったか分からないといわれたエピソードを話したら、内定先の面接で面接官から「君のそういう話はいいと思う」といわれました。何がうまくいくか分からないものです。

**明石** 行けると思ったらダメ、逆にダメと思っていたら受かるのか。自分のことを自分で判断するのは難しいものですね。

**神山** では、インターンシップやOB訪問がそれぞれの就活にどんなふうに役立ちましたか。

**有井** OB訪問は面接と同じと考え、たくさんのOBを訪問しました。OBからは自分自身の印象とか、どんな人間に見えるかをフィードバックしてもらえますし、絶対した方がいい。OB訪問することで、こちらが相手にどんなイメージを与えているかや、人事がこういうところを見ているということが分かる。モチベーションの高い社会人と話すのはとにかく楽しいです。

**明石** 私は、フリーペーパーのサークルに所属していましたので、インタビューのために知らない人にアポイントを取り、会いに行き話を聞くことに慣れていました。サークルをきっかけに出版業界を目指すことになったのですが、紹介をお願いして会ったOB、OGのみなさんのお話は就職活動にとっても役立ちました。

**辻** 私は、OG訪問でとてもいい出会いがありました。その人にはエントリーシートを添削していただいたり、心配していただいて「どうしていますか」とお電話をいただいたこともありました。また、会社説明会で同じ就活生に積極的に声を掛けて、他の会社の情報を交換したりしました。面倒だなと思われたかもしれませんが、すっかり仲良くなった人もいます。

**山路** 実は、私はOB・OG訪問は全くしてないんです。啓発本を読んでいて、一番大切にしてきたものについて話さなさいとあったので、それについてじっくり考えた時、自分にとって一番大切なのはやはり人に喜んでもらうことだと改めて気づきました。自身を振り返るいい機会にもなったし、百貨店業界

に就職してお客様に喜んでもらおうと考えるきっかけにもなりました。

## キャリアセンターを活用しよう

**神山** 先ほど少し話が出ましたが、大学のキャリアセンターはどう活用しましたか。

**辻** 春学期に企業セミナーに参加するため、今出川キャンパスに通いました。エントリーシートを見てもらったカウンセラーが「このESでは伝わらないよ」とおっしゃって、丁寧に指導していただき、自分のエントリーシートを完成させることができました。感謝しています。

**山路** 私は、エントリーシート講座にも参加したのですが、期待した成果が得られませんでした。そのことで逆に奮起して、人に見てもらうこと前提ではダメだと考え、自分でエントリーシートを書き上げたのがよかったように思います。

**明石** 私もエントリーシートは見てもらいませんでした。キャリアセンターが開催する企業セミナーはいいですね。こんなにいろんな企業について知ることができるのは、就活の時しかありません。まず面白いという理由で参加していました。

**辻** 気軽に参加できるのがいいですね。同社社のOB・OGを連れてきてくれる会社もあり、企業セミナーはおすすです。

**有井** 企業セミナーはスーツでなく、私服で参加できる場所もいい。



4年次生 明石 悠佳さん

## 心理学部で学んだメリットは

**神山** ところで、就活の上で心理学部で学んだメリットはありますか。学んだことが生かされたことはどうですか。

**明石** チームワークを支援するシステムについて質問があり、それがたまたま卒論のテーマにマッチした内容だったので、自信を持って頑張っ話せたという経験はあります。

**辻** 心理学部って何を勉強しているのとか、珍



4年次生 有井 佳祐さん

しがられたことはありましたね。エピソードとして、心理学部で学ぶことでこういうことができますと話したこともあります。

**山路** 臨床心理士とかなぜ専門職を目指さないのかと聞かれたこともあります。やはり公務員志望とみられがちですね。

**有井** 心理学部で学んだことで役立つのは、まず自己分析ですね。それを基にエントリーシートを書き、面接対策をするわけですから。

**明石** 心理テストで知っているテストがあって、本当は何を聞こうとしているのか分かるということもありました。

**有井** アンダーマイニング現象とか、心理学の専門用語にはかっこいい言葉が多い。面接では、それを効果的に使いました。

**神山** 圧迫面接というのはありましたか。

**明石** 2度ありました。1度は内定をいただいた会社で、何を話してもダメだと思い、気が付いたら泣いていました。行きたかった出版社では、12人の面接官対私1人というのがあって、あれも圧迫面接だと思います。

**辻** 私も嘘をつくのが嫌で泣きました。就活では第一志望という嘘をつかないといけないところがあるのですが、そういってもばれているのです。「矛盾している」といわれて、思わず泣いてしまいました。

## 後輩に私たちからのメッセージ

**神山** いろいろと伺ってきましたが、これが最後の質問です。これから就職活動を控えている後輩へのアドバイスをお願いします。

**明石** 嘘をつかないことが一番大切です。辛いことを聞かれたら、「ないです」というのも1つの答え方。無理にねじ曲げるよりは、ありのままの自分を表現することが大事だと思います。

**神山** 本心でないと自然な会話にならないでしょうから、面接官に見破られますね。

**辻** 私は3つあります。まず、企業説明会には1日3つは行くこと。しんどくなって、さぼりたくなるかもしれませんが、行ってみたいいい出会いもある。とりあえず行ってみてください。2つ目はあいさつを大事にしてほしい。私は鏡を見て練習しました。第一印象はとても大事です。最後に笑顔と熱



4年生 山路 浩記さん



意。どうして就職したいのか、笑顔と熱意で第一志望の企業にきちんと伝えてください。

**神山** 企業はこの人となら一緒に働きたいと思う人を採用するでしょう。笑顔と熱意で自分の持っているものをアピールすることは大切です。

**有井** 私はまず、気楽にやってほしいと思います。就活は辛いものという固定概念がありますが、自分の夢に向かって就活しているんだと考えれば楽しく就活できます。2つ目は面接のテクニックをどう磨くか。スーツを着て、この質問に対してどう演じるかを考えてみると、うまくいくこともあります。最後は出会いを大切にしてほしいということ。人生で無意味な出会いはありません。人を大切に就活してほしいと思います。

**神山** 演じるってどういうことなの。

**有井** 演じるといっても、偽りの自分を演じるわけではありません。誇張はするけど、嘘ではない自分。強調するというか、ビシッとやるというか、モードインするってことです。

**神山** なるほど。就活モードに切り替えることは大事なことですよね。

**山路** 私が最後になりましたが、嘘をつかないためには自分自身をきちんとわかっていないとだめですよ。その企業や仕事へのあこがれがなく、なぜそう考えるかを自分の言葉できちんと説明する。そのためには自分をちゃんと見つめ、じっくり考えることが大事だと思います。

**神山** 希望業種が途中で変わりましたよね。今の考えに至ったのはどうしてですか。

**山路** 面接の中で考えが変わりました。メーカーは憧れだけで受けていたことが分かりました。面接官の受けがよくなかったのは、考え方が違ったからです。自分をちゃんと見つめ、じっくり考えることで、自分に合う業界が分かってきたのだと思います。

**神山** 就活はゼロからのスタートですが、模索しながら内定を勝ち取ったみなさんのお話を聞いて、就活は自分自身を見直す、いい機会でもあるのだなと感じました。後輩のみんなにとっても、とても役立つお話ばかりでした。本日は長時間どうも有り難うございました。

# Information

## 2013年度(2014年4月採用) 心理学部心理学科 進路データ

表1 2013年度卒業生進路

	全体(人)	男子(人)	女子(人)		全体(人)	男子(人)	女子(人)
公共・その他	19	9	10	大学院進学(学外)	14	3	11
サービス	18	3	15	大学院進学(学内)	8	3	5
金融	17	3	14	その他の進学	2	0	2
メーカー	13	5	8	<b>進学者小計</b>	<b>24</b>	<b>6</b>	<b>18</b>
流通	10	1	9	(割合%)	(18.3)	(15.4)	(19.6)
情報・マスコミ	9	2	7	未確認	17	8	9
教育・学校支援	4	2	2	(割合%)	(13.0)	(21.1)	(9.7)
<b>就職者小計</b>	<b>90</b>	<b>25</b>	<b>65</b>	<b>合計</b>	<b>131</b>	<b>39</b>	<b>92</b>
(割合%)	(68.7)	(64.1)	(70.7)	2014.3.26現在 心理学実験室調べ			
(就職内定率%)	(84.1)	(75.8)	(87.8)	*未確認には、未定者、未報告者を含む			

表2 2013年度卒業生就職先一覧

公共・その他 19	家庭裁判所調査官 公益財団法人(2)	府・県警(京都(3)、青森、静岡)	市役所(池田、広島、大阪、茅野、神戸) 社会福祉法人(2)
サービス 18	株式会社タナベ経営 ヒューマンリソシア株式会社 株式会社マイナビ 京都タワー株式会社 全日本空輸株式会社 株式会社タナックス	株式会社総合キャリアオプショ ン株式会社ニラク ソフトバンクモバイル株式会社 株式会社H・I・S 株式会社CAN 株式会社FRR	株式会社ベアハグ 株式会社ミルボン 裕進観光株式会社 KCCSマネジメントコンサルティング株式会社 株式会社福井県民球団 株式会社エスクリ
金融 17	株式会社三井住友銀行(3) 三菱UFJ信託銀行株式会社 滋賀中央信用金庫 京都信用保証協会 藍澤証券株式会社	株式会社三菱東京UFJ銀行 株式会社近畿大阪銀行 三井生命保険株式会社 NTTファイナンス株式会社	アメリカンファミリー生命保険会社(2) 三井住友信託銀行株式会社 日本生命保険相互会社 野村證券株式会社 アコム株式会社
メーカー 13	株式会社バンダイナムコゲームス 福島工業株式会社 サンキン株式会社 株式会社共立合金製作所 タマホーム株式会社	明和機工株式会社 奥村組土木興行株式会社 サッポロビール株式会社 ヤンセンファーマ株式会社	花王カスタマーマーケティング株式会社 ノバルティスファーマ株式会社 株式会社デンソーセールス 株式会社類設計室
流通 10	イオンモール株式会社 株式会社リンク・セオリー・ジャパン 株式会社DNP住空間マテリアル	株式会社京阪百貨店 株式会社ストンプ・スタンプ 株式会社ハートフレンド	イオンリテール株式会社 株式会社クロスカントリー 株式会社アニエスベーサンライズ
情報 9	SGS株式会社(2) 株式会社エム・アール・ビー 株式会社システムコーディネイト	NECソリューションイノベータ株式会社 株式会社ワークスアプリケーションズ	株式会社NTTマーケティングアクト 株式会社システムディ ユニシステム株式会社
教育・学校支援 4	国立大学法人 東北大学 株式会社ウィルウェイ	株式会社オー・イー・エス	学校法人 関西医科大学

表3 他大学大学院進学者進学先

他大学進学者 14	神戸大学大学院人間発達環境学研究所(2) 中京大学大学院心理学研究科(2) 兵庫教育大学大学院学校教育研究科専攻 早稲田大学大学院人間科学研究科 関西大学臨床心理専門職大学院 神戸大学大学院医学研究科	関西大学大学院心理学研究科(2) 大阪大学大学院人間科学研究科 鹿児島大学大学院臨床心理学研究科 川崎医療福祉大学大学院臨床心理学専攻 一橋大学大学院社会学研究科
--------------	---	---

## 大学で学んだ心理学を仕事に生かす

専門学校にも通い、面接対策を強化

神戸家庭裁判所調査官補

丸山 周也さん (2013年度卒業生)



私は同志社大学に心理学部ができた2009年に入学しました。大学では心理検査や実験などを通じて心理学を学び、神山ゼミで教育心理学を勉強しました。もともと人と話をしたり、人の話を聞いたりするのが好きで、勉強してきた心理学を活かせる仕事に就きたいと考えていました。卒業後は、神山先生の勧めで一年間、南山大学人文学部心理人間学科で研究生として、コミュニケーション技術や社会心理学についても幅広く学びました。

現在は、神戸家庭裁判所で調査官補として働いています。大学時代からこの仕事に関心がありましたので、心理学系の公務員試験に強い専門学校に通い、準備を進めてきました。調査官の試験では面接が特に重視されるので、どうしてこの仕事に就きたいのか自分自身の決意を固め、ロールプレーで面接対策を強化しました。調査官のほかに児童相談所職員など心理学系の地方公務員試験も受けました。これらの職種は試験科目に心理学があるので、心理学部の卒業生にとっては有利だと思います。

家庭裁判所の調査官の主要な仕事は、未成年の犯罪事件で家裁の審判が行われる時、事件を起こした少年やその家族、時には被害者と面談して報告書を作成することです。報告書は裁判官が少年に処遇を言い渡す際に参考にする最も重要な書類です。少年がきちんと更生の道を歩んでくれるかどうか。その将来を左右するという意味でも大変責任が重い仕事です。また、それだけにやりがいのある仕事でもあります。

今年4月に任官し、3か月間の研修を受けた後、7月に神戸家裁に赴任しました。この世界に入り、少年犯罪の調査を担当してつくづく思うことは、両親が仕事を持ち、子育てや教育がきちんとできる家庭の大切さや有難みです。少年犯罪に走る子供たちには、温かい家庭環境が欠落しているケースが多いのです。



大学時代は自由になる時間が多いので、それを有効に活用していろんな人との出会いを経験し、多様な価値観に触れてほしいです。そうした経験が就職活動の上でもきっと生きてくるし、その中から自分のやりたいこと、明確な目標が見えてくると思います。家族とのコミュニケーションも大事です。ご両親は人生の先輩として、適度な距離感を置いて子供たちの自立を見守り、就職や進学など必要な時には適切なアドバイスをしていただけるのがベストではないかと思います。

# 日本心理学会第78回大会

The 78th Annual Convention of the Japanese Psychological Association

9月10日から12日の3日間にわたり、日本心理学会第78回大会が今出川キャンパスの良心館にて開催されました。日本心理学会とは、心理学におけるあらゆる領域の研究者が一同に集い、研究発表や意見交換を行う場です。発表は、ポスター形式のものからワークショップ、講演など、様々な形で行われます。毎年、全国各地の大学が持ち回りで準備や運営を行っており、今年はそれが22年ぶりに同志社大学に回ってきたというわけです。

本大会の参加者数などの詳しいことに関しては鈴木先生が記してくださいましたので、ここでは私が携わってきた大会準備の様子に触れつつ、お話を進めたいと思います。

学会の準備と聞いて、皆様はどのくらいの期間を想像されるでしょうか。日本心理学会は規模も大きいので、なんと約1年間かけて準備されます。プログラム作成や会場の教室配置、備品発注、スタッフマニュアルの作成等、ほとんど全てを準備委員会で行うのです。プログラムの編成・校正の時期は血眼になって校正を行い、備品準備あたっては、ネームホルダー4,000枚を5人がかりで1日かけて組み立てたり、クロークの親子札500組1枚1枚に手作業で紐を通したりと、地道な作業を黙々と行い、少しずつ準備を進めてきました。

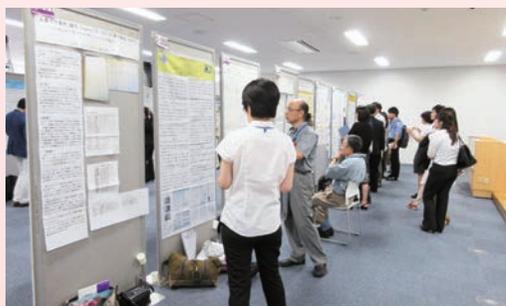
大会当日は、備品の分量を多めに見積もっていたにも関わらず、予想以上に参加者数が伸びてクロークの札や休憩室の飲み物などが足らなくなり、急遽追加せねばならないほどの盛況ぶりでした。それでも好評に終える事ができたのは、慌しい中でも会場内で臨機応変に対応してくださったスタッフの方々のおかげだと思います。

スタッフをしてくださった学生の方、特に学部生の方にとって、今回の学会は貴重な経験となったのではないのでしょうか。というのも、学部生時代に学会に参加すること自体、あまりない事だからです。ましてや運営側に立つ事なんて、本当にタイミングが良くないと出来ないでしょう。初めて関わる心理学会がこのような国内最大規模のもので、しかも学内で開催され、その運営スタッフの一端を担えたという経験は、今後の学生生活の糧となると思います。

最後になりますが、鈴木先生、中谷内先生をはじめとする先生方、そしてスタッフの皆様には、大変お世話になりました。本当にありがとうございました。



日本心理学会第78回大会準備  
委員会事務局 久禮まゆ



# 皆さんありがとうございました

## 鈴木 直人 教授



去る9月10日～11日に今出川キャンパス良心館において日本心理学会第78回大会が開催されました。同志社での日本心理学会大会開催は87年の歴史の中で3回目、前は故松山義則先生を大会委員長として1992年に開催して以来の大会でした。前は猛暑の中、団扇を配り、氷柱を立てての大会でしたが、今回は地下鉄が直結している良心館のみですべてのプログラムを行うという非常に恵まれた大会となりました。参加者は3,500人を越し、東京での大会をも越す参加者がありました。多くの参加者から、素晴らしい会場、素晴らしい学生、さすが同志社だとお褒めの言葉を聴きました。これもすべて、当日に向け準備してくれてくれた中谷内先生、久禮さんの二人の準備が完璧だったことの賜物だと思います。また同志社の学生はこのような場になれば自分で適切な判断をすることができると思いましたが、思った以上にやってくれました。係りの学生は当然のことをしたつもりだったのですが、やってもらった参加者は大変うれしかったことがツイッターにも書かれていました。学会を開催することは、大学の名誉はもちろん、学会を通して教員と学生、院生の皆さんが親しくなり、また自分の所属する大学に対する誇りを持てるようになることだと思います。今回の大会はそういう意味でも大成功だったのではないかと自賛しています。皆さん本当にありがとうございました。

## 吉野 遼太郎

スタッフとして臨んだ日本心理学会大会は、私にとって大変有意義なものとなりました。私が特に感銘を受けた点は以下に集約されます。

まず、運営側が、起こりうる様々な事象を想定し、予めそれに対応できるような綿密なシステムを用意していたという点です。具体的には、今回から新しく導入された発券機が少し複雑なシステムだったのですが、来られる方の手続きのパターンを予め予測し、加えて不測の事態が起こった時の余白的な部分も用意しておく、などといったことがそれにあたります。これは当たり前なことかもしれませんが、だからこそ欠かせない大切なプロセスで、心理学に限らず、ありとあらゆる活動において重要であると認識しました。

次に、普段私たちが授業の中で学んでいる“心理学”が、こうして生まれ、成立してきたのだな、と感じたことです。多様な地域からたくさんの心理学関係者が集まっている様子は圧巻で、特に、ポスター発表会場にて、大勢の若い研究者の方が、自身の研究を生き活きと発表していらした姿はとても魅力的でありました。そのような“生の心理学”に触れたことにより一層心理学研究への興味が高まりました。

最後に、なにより同志社大学の先生方や学生の皆さんが、それぞれの協力の下に今回の日本心理学会大会を成功させたこと。改めて自分の所属するコミュニティの素晴らしさを体感するとともに、自己の将来について考えるよい機会となりました。

## 渡邊 雪乃

今回、私は大会運営スタッフとして心理学会第78回大会に参加させていただきました。大会日程とは別に、9月のはじめに事前説明会がありました。説明会ではマニュアルが渡され、期間中自分がどの係なのか、当日どのように動けばいいのかという説明を受けました。私は朝と夕方のクロークと、お昼の時間に行われる小講演を1日につきひとつ担当することになりました。私はそれまで学会というものに参加したことがなかったので、不安半分、楽しみ半分で大会当日を待っていた記憶があります。

当日は戸惑うことも多かったのですが、心理学部の先生方や院生の方に助けていただき、つつがなく役目を果たすことができました。小講演では、主に発達心理学や社会心理学に関する最新の研究内容を聴くことができ、とても興味深かったです。このようにして心理学は発展していくのだなと実感しました。この大会を通して、私も卒業論文を書くときには、心理学の発展に寄与することができるような有意義な研究をしたいという思いが強くなりました。そして、個人的には夏休み中に心理学部の先生や友達、先輩に会うことができとても嬉しかったです。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。



## 大学生活を振り返って

長光 健二さん

[1年次生]

ちょうど去年の今頃は僕が心理学部に願書を出した時期でした。第一志望であった学部へ推薦してもらえる事に喜びを感じたとともに、春には自分も大学生になるのだという思いが少し湧いてきたことを覚えています。そうして高校生活はあっという間に過ぎていき、新しい環境への楽しみや不安など様々な気持ちを抱きながら大学生になる日が来ました。

大学生活において大きな不安はやはり勉強についていけるのかということでした。推薦で入学しているため受験を経験してきた周りの人たちの学力の差があるのではないかと気にしていました。しかし大学の講義では一からわかりやすく教えてもらえることや全く新しい知識を学ぶことがほとんどであったために、講義に出てしっかり話を聞けば勉強にもついていけることができました。講義においてわからないことがあるときにも先生に聞いたり友達から教わったりすることもでき、今は勉強への不安はほとんど無く大学生活を送ることができています。

また大学生になったらサークル活動が楽しいというイメージがあったのでサークルに入って楽しみたいと考えていました。二つのサークルに入会したことにより学部内だけでなく大学内の様々な友達を作ることができ人脈が広がりました。大学生になって新しいスポーツを始めましたが、僕と同じように大学から始めたという人もサークル内にはいるので初心者僕でもサークルに行き楽しむことができます。頻りにサークルに顔を出すことは難しいけどこれからも楽しみたいと思います。

入学前は楽しみや不安など大学生活には様々な思いがありました。今は楽しい大学生活を送ることができています。たくさんの友達や知り合いに恵まれながら大学で学ぶことができ良かったです。これから学期末テストがあったり学年が上がったりすることで忙しくなることが多いと思いますが一つ一つに努力を尽くせるように頑張りたいと思います。



## 期待に応えてくれる 同志社大学心理学部

山根 久美子さん

[1年次生]

同志社大学心理学部に入学して、早くも半年以上が経ちました。大学生活を送るにあたって決めたのは何事にも挑戦する、ということ。初めの挑戦は体育会航空部への入部でした。今は月に一度、滑空場へ合宿に行き、グライダー操縦の訓練を行っています。他大学と合同の場合も含め、木曾川や大野、福井での合宿は楽しくて仕方ありません。

また、同志社クローバー祭の実行スタッフとして、ゆるキャラの企画を担当しました。毎週企画書を提出する春学期、ほぼ毎日ゆるキャラ団体の方に連絡する秋学期は大変なものでしたが、クローバー祭を終えて、ゆるキャラ団体の方に、「1年生とは思えないしっかりした対応で、今年あなたに呼んでもらって本当によかった。」と言ってもらいました。自分のやってきたことに対する評価をいただき、自身も成長できました。

アルバイトは小学生から高校生を対象に塾で教えています。中高生たちの進学や心の相談にのっていると、授業で学んだ心理学が役に立つときがあります。

また、夏休みには大学主催の函館キャンプ、キャリア体験インターンシップへ参加しました。キャンプでは、新島襄が脱国という挑戦を決行した函館で、新島と同じ空気を吸い、彼について学びました。新島プログラムでは良心教育についてプレゼンし、最優秀賞をいただきました。インターンシップは東京の民間企業を3社訪問しました。入学して半年くらいですが、たくさんの人との出会いがありました。プログラム終了後も、お茶をしたり、将来について真剣に話のできる最高の仲間です。そして今、留学生課の学生スタッフSIEDの一員として活動しています。毎週、留学生の友達ができ、刺激的な先輩とも出会えます。

様々なことに挑戦するにつれ、自分に課される課題も増え、大変ですが、それ以上に、出会いと経験は宝物です。マルチリンガルを目指し、挑戦を続け、全身で吸収しながら成長していきたいです。



## 「忙しい大学生活」

國藤 光也さん

〔2年次生〕

「遊ぶ時間なんて大学生になれば、たくさんある。」

私が高校生だった頃に父からよくこう言われました。でも大学で1年間半を過ごしてわかったことがあります。それは、やりたいこと・やるべきことをしっかり実行するのならば、使える時間はぎりぎり、大学生活はとても忙しいものになる。ということです。

ここでは、その「忙しい大学生活」とはどのようなものなのか、少しご紹介したいと思います。

まず、一番大きな割合を占めているのが、授業の課題に取り組む時間です。もちろん大学は勉強をする場所なので、当たり前のことですが、皆さんの中には「文系＝勉強しない」というイメージを持っている方も多いのではないかと思います。しかし実際には、心理学レポートから、グループワーク、毎授業の小テスト、英語のプレゼンテーションや第二外国語の宿題など、次から次へと課題は降ってきます。これだけでもすべてを全力でするとなると、相当な時間を必要とします。

次に欠かせないものはクラブ活動やサークル活動だと思います。私は体育会には入っていないのですが、それでも週末は京都市内などへ行き、サークル活動をして過ごすことが多いです。同志社大学は京田辺校地と今出川校地のふたつのキャンパスがあるので、どちらか一方のみで練習するというわけにもいかず、多くの学生が自分のキャンパスから離れた場所で練習に励んでいます。そういうわけもあり、サークル活動に費やす時間も自然と多くなるのではないのでしょうか。

この上にさらに、日々のアルバイトが加わることを想像していただくと、実際の大学生活がいかに忙しいかが感じられるのではないのでしょうか。しかし、私にはやりたいことがまだまだたくさんあります。京都観光や日本旅行をして日本のことを深く知ったり、自分の趣味に没頭したり、留学したり... 限られた時間の中で少しでも多くのことを実現できるように、残りの学生生活もまた、忙しく駆け抜けたと思います。



## ハンサムに生きる

服部 美保さん

〔2年次生〕

「ハンサムウーマン」という言葉を聞いて、皆さんはどのような印象を持たれるでしょうか。この言葉は、同志社の創立者である新島襄が妻・八重に贈った言葉に由来し、昨年のNHK大河ドラマでも大きく取り上げられましたから聞き馴染みのある方も多いと思います。豪快に様々なことをやり遂げる女性、自分の決めた道を真っ直ぐ進んでいく人。様々な解釈の仕方があると思いますが全てに共通しているのは、他者の意見も受容した上で自身を貫く意思の強さを持っている、という点です。勿論過度の自己主張はいけません。しかし、自分の選択は全て自己責任であり、目標が達成出来るまで努力し続ける覚悟を持つことこそがハンサムな生き方に繋がるのではないのでしょうか。

私がこのことに気付いたのは、大学生活も二年目を迎え、自分の将来について度々両親や友人と話すようになったことがきっかけでした。歴史は苦手だけど法律や政治に少し興味があるからという軽い気持ちで続けていた教職、高校時代に観たフランス語劇が忘れられず第二外国語として履修していたフランス語、幼少期からの夢であった臨床心理士の資格取得。しかし、本当に自分は教師になりたいのか、フランス語を学んでどうするのか、臨床心理士を目指すなら何を勉強すれば良いのか等の具体的なイメージは全く持っておらず、長い間自分の将来像を掴めずにいました。ただ、「今まで続けてきたことを、途中で諦めたくない」という強い思いを自覚した時に、目指すところまでやってみよう、という覚悟が決まったように思います。

具体的な目標を持つことは素晴らしいことですが、為すことを目標とするより、続けることを重視した方が将来への道は広がります。私自身も、自分が社会科教師を目指したり、フランスへ留学に行ったり、大学院進学も視野に置くようになるなんて勉強を始めた頃は思いもしませんでした。これから先も自分が興味を持ったことを追い続ける勇氣とそれに伴う学びを積み重ねて、ハンサムに生きることを目標にしたいと思います。

案内役はこの4人!

● 中屋 真実さん

心理学部で4年間を過ごした中でも特に印象に残っていることは、入学後すぐに行われる新入生合宿です。新入生合宿に行って、より仲を深めることが出来たので、そのような機会を設けてくれた心理学部の先生方には感謝しています。



● 大仲 陽子さん

心理学は学べば学ぶほど新しい発見があって、ワクワクします。また、友達にも恵まれて、一緒に授業を受けたり、ご飯を食べたり、そんなちょっとしたことでとても楽しく、充実した大学生活を送っています。



● 菱田 彩香さん

心理学部は1学年が200人満たないので、1年生の頃から多くの友達が出来ました。特に写真と一緒に写っている4人とは、ゼミは違いますが、入学式で出会って以来、今でもお互いのお誕生日会を開くほど仲良しです。



● 兼本 佳恵さん

友人と一緒に授業を受けたりお昼ご飯を食べたり、誕生日会をしたことが思い出に残っています。大学を卒業しても、ずっと変わらない関係でいたいと思います。



在学生  
PHOTO  
アルバム  
～学生生活の  
一コマより～



1年生の初めての実験演習の際に、初めて白衣に袖を通し、高校生の頃には味わうことのできなかつた喜びで胸がいっぱいでした。



知証館南館 手術室

学外でも…



2年生の夏に、心理学部の友達がBBQ大会を琵琶湖で開いてくれました。30人程が参加をし、心理学部生の仲の良さが伺えました。

ラーネッド記念図書館



3年生になり、時間に余裕ができたため、図書館の前の芝生でピクニックをしました。秋になり、過ごしやすい気候の中でのピクニックは最高です。

香柏館低層棟2階 フリーラウンジ



友達のお誕生日会を、香柏館の心理学部ラウンジで開きました。この場所はできたばかりなので、とても広く、綺麗な場所です。授業がある日は、よくここでお昼を食べています。



3年生の冬になり、それぞれが就職活動や院試の勉強で、会える日が少なくなってしまいました。この日は友達のお誕生日会を京田辺キャンパスの中にある、ラテというカフェテリアで開きました。コース料理と久しぶり会えた嬉しさで、満腹になりました。

食堂・購買棟1階 Hamac de Paradis Latte





## 辻 秀雄

4年次生  
辻 美里



満開の桜並木を誇らしげに歩るいた入学式から、もう4年の月日が過ぎようとしている。大学生生活がスタートするという喜びと娘の一人暮らしへの不安が入り混った雰囲気の中で、8畳ほどの下宿に家族4人でテレビや冷蔵庫を運んだり衣類を整頓していたことを懐かしく思いま

す。そして、その頃にあった不安や心配は、帰省した際に大学生生活を過ぎいきと語る表情を見て、すぐに消えさって安心へと変わったことも思

い出されます。本当に、大きなトラブルもなく充実した大学生生活を過ごすことができて良かったと思います。

今は、地元の企業への就職が決まり、卒論の作成に加えて、就職先で必要となる資格取得のための勉強にも取り組んでいる所だと思

います。不動産関係の企業に就職するというので、心理学とは直接関係のない分野の仕事ですが、多くの人たちと、そしていろいろな人たちとかわることができる素晴らしい仕事だと思

います。そこで必要とされるのが、最近よく耳にするようになった「コミュニケーションの方法が、同志社大学で心理学を学んだからできるコミュニケーションの方法が、きっとあるはずだ」と思

います。世の中には、自分の思いをコミュニケーションができるといいと思

います。コミュニケーション能力があると、や考えを、一方的に饒舌に語って、コミュニケーション能力があると思

っている人たちもいるかと思

います。同志社大学心理学部で学んだこと、大学生活をともに過ごした友達、京田辺での下宿生活等すべてのことが、これからの人生を歩んで行く時の大切な財産です。自信を持って、進んでください。輝く未来が、きっとあると思

います。

## 廣瀬 峰雄

1年次生  
廣瀬 佳映



心理学部にご縁をいただいて、早いもので1年をむかえようとしている。この間、新しい先生方をはじめ、仲間たちとの出会いや交流がたくさんあったと思う。学業でも生活でも、不安や心配も多々あっただろうけれど、自身で、それなりに、努力し、理解しようとしたことが、自信の形成につながっているのではないだろうか。目標に達することができれば、それはそれで素晴らしいことではあるけれど、たとえ、それに達することができなくても、それを目指し、努力している過程こそ、きっと「幸福なとき、ではないか。

そう言えば、私が大学生の頃(約30年前)、下宿先から、小さなバイクに乗って、学校(今出川)へ、サークルへ、そしてアルバイトへ出かけ、学生生活を過ごした。当時、いろんな友達、仲間との語らいが楽しみだった。同じ時代を過ごした仲間はいつになっても良いものだ。時間が足早に過ぎたり、またゆっくりと流れたり、それなりに青春を謳歌していた気がする。失敗したこともたくさんあるけれど、思い出は、良いものしか残らない(?)のか、つらかったという記憶が少ない。「楽しんで、取り組んだことが大きいのかもしれない。

最後に一言。あまり立派なこととは言えないけれど、物事には、成功も失敗もある。ピッチングマシンでも、バッターは、次から次へと来る球を、ジャストミートできるときも、できないときもある。たとえ、空振りしても、気持ちを切り替えて、「次の球をジャストミートする。ことだけを心がければよい。(…という私もなかなかできないているけれど。)

とにかく、たっぷりある時間を活かして、自分らしい、前向きで建設的な学生生活をおくってほしい。今日の小さな経験が未来の自分をつくっていく

父より

## ❁「同志社大学心理臨床センターをご存知でしょうか」



武藤 崇 教授

心理学部のホームページをご覧いただいたことはございますでしょうか。

そのホームページの中に「心理臨床センター」というバナーがあります。それをクリックしていただくと、同志社大学心理臨床センターのホームページに飛ぶようになっております。

この心理臨床センターとは、地域の皆様にも、専門的な心理的なサービスをご提供するための施設です（ただし有料となります／場所は、今出川校地にある継志館の1階にございます）。そして、同志

社大学大学院心理学研究科臨床心理学コースで学ぶ大学院生に対する研修施設としての役割も担っております。そのセンターには、相談員2名（いずれも臨床心理士の資格を有する）と事務員1名が常時勤務し、また臨床心理系の教員が曜日交代で1名以上勤務して、サービス提供や教育・研究にあっております。当センターが開設して4年半が経過しましたが、昨年度は年間のべ700件以上の心理相談を行うまでになりました。本学所属の学生以外の方でお困りのことがある場合は、当センターをご紹介いただければ、お役に立てることがあるかと存じます（本学の学生は、学内に設置されているカウンセリングセンターを無料で利用できます）。

## ❁経験と発達



内山 伊知郎 教授

私の研究室では、子供から高齢期まで、ヒトの発達する様相を研究しています。発達には、身体発達のように、生物学的な要因によって、内的にプログラムされているかのように発達する側面があります。他方、しつけや教育など、他者からの働きかけによって発達する側面

もあります。

私は、米国の共同研究者と一緒に、発達における経験の重要性の研究をしています。乳児は自ら行う移動であるハイハイを始めると、認知面や感情面などの心理発達が促進されることがわかっています。ハイハイの開始自体は生物学的な事象ですが、ハイハイをすることにより環境とのかかわり方が変化します。自らの意思で遠方に行くことや、母親の後追いもできるようになり、主体的に積極的に環境にかかわることができるようになります。これが、発達を促進

するようです。

同志社大学の教育理念には、自由主義、すなわち自主・自立の精神を涵養することが挙げられています。これは大学生の時期も自ら主体的に行動し、経験を広げ、同時に自由に伴う責任感も育んでもらいたいということだと思います。新しい経験がこころの発達を促進することは、私たちの日々の経験から理解できます。たとえば、大学時代にサークル活動に取り組み、新しい世界に身をおけば、アイデンティティの形成にも影響を与えられと考えられます。大学時代には将来に向かってのアイデンティティを確立する時期ですから、その経験自体が直接のアイデンティティにならなくても、さまざまな形で影響を与えていると思います。

最近では、ヒトは人生を通して発達するという生涯発達という考え方が普及しています。私たちは、もう学びの時期は終わったと思うことなく、生涯を通して、新しい経験が発達を促していると考えていくことが大切です。新しい経験に柔軟であり、主体的に豊かな人生をつくっていくことが期待されます。



## ■ 心理学部・心理学部父母会行事

### ● 2014年度 心理学部 秋学期卒業式・学位授与式

日 時:2015年3月22日(日)13時～  
場 所:京田辺キャンパス デイヴィス記念館

### ● 2015年度 新入生父母交流会(入学式)

入学式後、新入生のご父母対象に、学部および父母会活動のご説明を行います。  
在学生による学生生活リポートもご紹介の予定です。

日 時:2015年4月1日(水)15時30分～16時30分(予定)  
場 所:京田辺キャンパス  
(※入学式は、14時から行われます。)



### ● 2015年度 父母会総会・就職講演会・懇親会

新役員・決算・予算・事業計画などをご審議、ご承認いただく年1回の総会です。  
就職講演会・懇親会もあわせて開催を予定しております。  
ご家族皆様お誘い合わせのうえご出席お願い申し上げます。

日 時:2015年5月開催(予定)  
場 所:京田辺キャンパス  
※詳細は追って心理学部父母会HP、郵送にてご案内いたします。



## ■ 学部学年暦

### 2014年度 秋学期

秋学期	10月1日(水)	秋学期始め・講義開始
	4日(土)	秋学期入学式
	13日(月)	体育の日(授業日)
	31日(金)	秋学期学費納入最終日
	11月1日(土)	同志社クローバー祭
	2日(日)	(スポーツフェスティバル)
	3日(月)	文化の日(授業日)
	24日(月)	振替休日(授業日)
	26日(水)	
	27日(木)	創立記念行事週間(休講)
	28日(金)	
	29日(土)	創立記念日(休日)
	12月23日(火)	天皇誕生日(授業日)
	25日(木)	キリスト降誕日(休日)
	28日(日)	冬期休暇開始
	2015年	
	1月4日(日)	冬期休暇終了
	5日(月)	講義再開
	23日(金)	創立者永眠の日
	27日(火)	講義最終日・木曜日授業振替実施日
	28日(水)	期末試験開始
	2月17日(火)	期末試験終了
	3月上旬	卒業可否発表
3月20日(金)		
21日(土)	秋学期卒業式・学位授与式	
22日(日)		
25日(水)	在学生成績通知書配付	
31日(火)	秋学期終り	

### 2015年度 春学期

春学期	2015年	
	4月1日(水)	春学期始め・春学期入学式
	2日(木)	新入生履修指導期間 履修科目登録期間
	3日(金)	
	4日(土)	
	5日(日)	
	6日(月)	
	7日(火)	講義開始
	28日(火)	春学期学費納入最終日
	4月29日(水)	休日
	5月5日(火)	
	5月6日(水)	振替休日(授業日)
	7月20日(月)	海の日(授業日)
	27日(月)	講義最終日
	28日(火)	期末試験開始
	8月7日(金)	期末試験終了
	8日(土)	夏期休暇開始
	9月23日(水)	夏期休暇終了
	24日(木)	在学生成績通知書配付
	26日(土)	春学期卒業式・学位授与式
	29日(火)	秋学期履修科目登録変更
	30日(水)	
	30日(水)	

# 心理学部父母会会則

## (名称)

第1条 本会は、同志社大学心理学部父母会と称する。

## (目的)

第2条 本会は、同志社大学心理学部(以下「学部」という。)の教育方針に則り、教員と学部内に在籍する学生の父母又はこれに準ずる者(以下「学生の父母」という。)との連絡を密にし、学生の就学を支援するとともに、学部の教育研究事業を援助し、学部の充実発展に寄与することを目的とする。

## (会員)

第3条 本会は、次の会員をもって組織する。

- (1) 父母会員 学生の父母
- (2) 参与会員 学部内に所属する専任教職員 若干名
- (3) 賛助会員 本会の趣旨に賛同し、これに援助を与える者

## (事業)

第4条 本会は、その目的を達成するため、次の事業を行う。  
(1) 学部と学生の父母との連絡を図る行事  
(2) 学生の教育、厚生、就職等に必要なる事業に対する援助  
(3) 学部の教育研究上、必要な施設の拡充及び学術研究に対する援助  
(4) 会報の発行及び配付  
(5) その他本会の目的を達成するために必要と認めた事業

## (総会)

第5条 本会に総会を置く。総会は定期総会と臨時総会とする。  
2 定期総会は毎年1回開催し、臨時総会は役員会の議を経て臨時に開催する。  
3 総会は全会員をもって構成し、会長が議長となる。  
4 総会の議事は、出席者の過半数をもって決定する。  
5 定期総会は、次の事項を決定する。  
(1) 役員を選出  
(2) 会則の改正  
(3) 事業計画、予算及び決算  
(4) その他重要事項

## (役員及び役員会)

第6条 本会は、事業推進と企画立案のため次の役員を置き、その役員をもって役員会を構成する。  
(1) 会長 1名  
(2) 副会長 2名  
(3) 会計 1名  
(4) 委員 若干名  
(5) 監事 1名

第7条 役員は、次の方法によって選任する。

- (1) 父母会員の中から選出する。
- (2) 役員は、役員会の推挙により、定期総会に諮って決定する。

第8条 役員は、次の職務を行う。

- (1) 会長は、会務を統括し、本会を代表する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。
- (3) 会計は、本会の会計を管理する。
- (4) 監事は、本会の会務及び会計を監査する。

第9条 役員は、必要に応じて適宜開催し、次の事項を審議し、本会の事業を実施する。

- (1) 役員会の推挙
- (2) 会則改正案の作成
- (3) 事業計画案、予算案及び決算案の作成
- (4) その他会務の運営、執行に関する事項

第10条 役員会は、緊急を要する案件は、総会に代り、審議、決定することができる。ただし、役員会で決定した事項は、総会において報告しなければならない。  
第11条 役員会は、必要に応じて、この会則の施行に伴う細則、規程を定めることができる。

第12条 役員会は、必要に応じて、この会則の施行に伴う細則、規程を定めることができる。

## (運営資金)

第13条 本会の運営は、父母会員費、寄付金及びその他の収入による。

## (父母会員費)

第14条 父母会員費は、学期額3,000円とする。ただし、学生が休学する場合は、父母会員費を免除する。  
2 父母会員費は、毎学期の初めに納入しなければならない。  
3 父母会員費の徴収は、大学に委託して行う。

## (会計年度)

第15条 本会の会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

## (事務局及び職員)

第16条 本会の事務局を心理学部事務室内に設ける。  
2 本会は、本会の庶務会計等の業務を処理するため、職員を置く。

## 附 則

この会則は、2009年7月18日から施行する。

心理学部ホームページをご活用ください！  
詳しい情報を随時発信してまいります。

同志社大学心理学部

検索

<http://psych.doshisha.ac.jp/index.html>

## ●重要なお知らせ

「心理学部父母会」ページのログインにはパスワードの入力が必要です。パスワードは毎春号にてお知らせします。

●2014年度心理学部父母会ログインパスワード  
[fobsr14]半角英数字

「在学生の方へフォトアルバム」ページもぜひご覧ください。お子様たちの活動写真を掲載しています。

こちらログインにはパスワードの入力が必要です。  
●2014年度心理学部フォトアルバムログインパスワード  
[stphoto2014]半角英数字



## 同志社大学 心理学部父母会会報 第11号

2014年12月19日

編集・発行/同志社大学心理学部父母会

〒610-0394 京都府京田辺市多々羅都谷1-3

TEL : 0774-65-8220 FAX : 0774-65-8223

E-mail : snr-fubo@mail.doshisha.ac.jp

印刷/株式会社 石田大成社



ご父母のさまざま  
ご意見ご感想など  
お待ちしております。  
左記までご一報  
ください。